



公益社団法人 石川県作業療法士会 ニュース

第105号 2017年12月20日 発行

第6回なごやか作業療法セミナー (10/8)開催される

事業部部長 宮腰 真 (地域医療機能推進機構金沢病院)

10月8日(日)、なごやか作業療法セミナーを地域医療機能推進機構金沢病院にて開催した。近年は養成校で開催していたが、今年は高校生のキャリア教育支援を踏まえ、作業療法士の仕事をより知ってもらうことを目指し、病院で開催した。参加は高校生18名、保護者2名と例年より多く、入院患者さんの協力も得て、盛況に終わることができた(集合写真参照)。



プログラムは、患者さんとの懇談会、病気と障害についての講義、アクティビティ・機能/能力検査・福祉用具の各種体験とし、作業療法の魅力を直接感じてもらえるような企画を用意した。懇談会では、患者さんが自身の訓練や障害体験を話され、高校生は少し緊張した面持ちで真剣に聴いており、非常に新鮮で興味深いものだったようだ。その後、風船バレーを行い、患者さんの若い頃の話や冗談も飛び交うなごやかな雰囲気となり、高校生達が目を輝かせ、笑顔あふれる元気な様子を間近にみる事ができた。患者さんも高校生との交流を「楽しかった」「ありがとう」と話され、訓練場面とは違った良い反応が印象的であった。協力して下さった6名の患者さんには、改めて感謝する次第である。

さて、今回のセミナーの開催と準備を通じ、当事業の意味を2点述べたい。一つは開催病院のリハビリテーション部内、さらには病院全体の理解を得て、開催にこぎつけたことは病院内のスタッフに対し、作業療法の理解を促せたということ。もう一つは高等学校の進路指導担当の先生等とのやり取りを通じ、高等学校では勉学や進学の指導だけでなく、キャリア教育、インターンシップといった将来の職業人、社会人としての基盤づくりにも取り組んでいる現状を理解できた点である。当事業は、参加する高校生にとっては、将来に向けた基盤となる能力や態度を育てることに役立つものであるべきと認識できた。そして、今回参加した高校生達が数年後、作業療法士になって再び顔を合わせることに繋がれば、一層うれしく思う。

セミナー後のアンケートでは、「患者さんと触れ合えてよかった」「懇談や体験が多く興味深かった」「なりたい気持ちが強くなった」と好反応なコメントが多くあった。また、内容については、各プログラムに対して、全員が満足との回答であった。今回の参加は金沢近郊の8校であった。県内に高等学校は56校あり、多くの高校生に作業療法士を知ってもらい、関心を持ってもらうためには、セミナーの開催場所や回数も、今後検討したい。

最後にとっても印象深かったのは、高校生が患者さんへの色紙を作る作業を通じ、高校生同士がセミナーを振り返り、自発的に活発な意見交換をしていたことである。高校生と同じように、私たち作業療法士も、作業療法をわかりやすく伝える、何を体験してもらうことが良いのかなど、多くの議論を経て開催できたことは、作業療法の魅力を振り返る良い機会となった。

色紙は後日、患者さんにプレゼントさせて頂いた。次回も多くの高校生や患者さんと有意義な時間を共有できれば幸いである。

第31回石川県リハビリテーション風船バレーボール大会開催

企画部理事 小池 隆行 (城北病院)



10月15日(日)、いしかわ総合スポーツセンターにて第31回石川県リハビリテーション風船バレーボール大会を開催した。

歴史あるこの大会も昨年30回の節目を迎えた。これまで大会を続けてこられたのも、ひとえに後援団体のご支援と県内の病院や施設のご協力があったことであり、この場をお借りして深く御礼申し上げます。また金沢大学、金城大学、金沢リハビリテーションアカデミーの各学校からは多くの学生にボランティアとしてご協力いただき、諸先生方と学生の皆様にも感謝を述べたい。

さて今年の大会では、初出場の施設(千代野デイサービス)と16年ぶりに出場となった施設(金沢脳神経外科病院)があった一方で、日曜のため参加が困難となった施設もあった。各施設諸事情があり条件を合わせることは困難もあるが、今後もできるだけ多くの方がこの場を経験できるよう、会員一同力を合わせて臨みたいと思う。大会自体は毎年同様形式で組んでいるが、毎年毎年それぞれの感動があり、無事終えることができた喜びを感じている。一方、参加者からは会員による審判の質の低下を指摘する声もあった。ゲームの面白さを左右するのは言うまでもなく審判による毅然とした運営である。当会も大会参加や風船バレー自体の経験もない若い会員が増えており、質の担保は会として取り組む大切な課題と考えている。

また今年度は風船バレーボール大会記念タオルの販売も行った。会員だけでなく参加者の方にも購入いただいたようで、これもまた嬉しいことであった。

これまで大会で使用していた風船が製造終了となったため来年度に向けて風船の切り替えを行う。新しい風船についてはこれまでと変わらずに参加者が楽しめるよう理事会で検討を予定している。決定次第お伝えするので、会員各位にはスムーズな切り替えにご協力いただきたい。

大会の概要と結果

- ・ 会 場：いしかわ総合スポーツセンター
- ・ 参加施設：15施設、22チーム
(一般部門：12 シルバー部門：4 お楽しみ部門：6)
- ・ 参加者数：168名
(男性：111名、女性：57名)
- ・ 参加者平均年齢：61.4歳
(最小年齢：13歳、最高年齢：97歳)
- ・ 結果
 - <一般部門>
 - 優勝：青山バルーン 準優勝：シルバーストーン 第三位：ゴールドストーン
 - <シルバー部門>
 - 優勝：恵寿鳩ぼっぼ 準優勝：白山会ちよのチーム 第三位：ふれあいレッツゴーピンク



『いしかわ介護フェスタ』に参加して

加賀のぞみ園 山田 智恵

10月21日(土)石川県産業展示館1号館に在宅支援部から10名、金沢東支部から10名が集合し、『いしかわ介護フェスタ』に参加した。

『いしかわ介護フェスタ』とは若い世代をはじめとした県民の方々に介護の仕事の魅力や重要性を伝えることで介護に対する理解を深めていただくことを目的とした県主催のイベントで、今年は3回目であった。今年は小学生親子を対象に、体験を通して介護に興味を持ってもらうことを目的とした『介護のお仕事ラリー』があり、当会ブースもその対象として盛りあがった。

今年は2つの『作業』を用いて認知症予防や作業療法の体験機会を



を提供した。『コグニラダー』では子供ははしゃぎながら、大人は「次どっち？間違えた～」と笑いながら身体と頭を同時に使う難しさと大切さを実感されていた。ゲストのひやくまんさんにも体験してもらい、大きな賑わいとなった。『マクラメ飾り作り』ではねじり編みや平結編みでストラップを作成した。参加者からは「お年寄りでもできますか？」「頭と手の運動になりますね」と興味を持って頂け、「うちの子こんなに集中できるんですね」とお子さんの新たな一面を発見された方もいた。終了時間ぎりぎりまで足を運んで頂き、延べ100名近い参加者の笑顔に触れ合えた1日だった。

参加者には『作業療法士』を知っている方も多く、次は「作業療法士の仕事に興味がある」と言ってもらえるように、今後も参加・体験型のイベント機会に作業療法の魅力を伝え続けていきたい。



「(一社)日本作業療法士協会主催

平成29年度地域ケア会議及び介護予防・日常生活支援事業に関する人材育成研修会」

地域包括ケアシステム推進委員会理事 村田 明代 (芦城クリニック)

去る9月9、10日の2日間にわたり、東京で開催された(一社)日本作業療法士協会主催「平成29年度地域ケア会議及び介護予防・日常生活支援事業に関する人材育成研修会」に参加する機会をいただいた。この研修会には全国の県士会の地域包括ケアシステム推進に関わる担当者(士会会長や副会長、担当理事や部長など)で全国から約90名が集まった。この研修会は、協会の地域包括ケアシステム推進委員会が、市町の自治体でスタートしている地域ケア会議や介護予防・日常生活支援総合事業(総合事業)等に対応できる、作業療法士の育成を各都道府県士会で行うことを目的に企画・実施された。

平成30年4月は、「第7次医療計画」「第3期医療費適正化計画」「第7期介護保険事業計画」のスタートと「診療報酬と介護報酬の改定」が同時に行われ、一体的に改革が進んでいく。今後、住み慣れた地域で安心して生活し続けるための地域包括ケアシステムの深化・推進が大きな課題となっている。介護予防の推進、自立支援に資するサービスへの転換、在宅での重症者への対応のための医療介護連携の確立など、私たち作業療法士は急性期や回復期、維持期に関わらず役割を担っていく必要性を再認識した。

この研修を受けて、平成30年1月28日(日)に、地域包括ケア推進委員会と健康福祉部と協力して、研修会を企画している。皆さんが居住または勤務している市町からの依頼で地域ケア会議や総合事業、地域リハビリテーション活動支援事業等に参画するに当たって、制度の理解や作業療法士に求められていること、他職種との協働などについて、学ぶと共に、地域に貢献できる作業療法士を多く育成することを目指している。

今後、各市町の事業に参画していくためには、多くの会員の協力が必要である。今回の研修会は経験の種類や有無に関係なく会員全員が対象なので、ぜひ多数の皆さんが参加してくださることを期待している。

第17回東海北陸作業療法学会に参加して

城北病院 藤本 周一

11月18・19日に名古屋で開催された第17回東海北陸作業療法学会に参加した。学会テーマが「作業療法から未来へのおくりもの～人・作業・社会を紡ぐ臨床技術～」ということもあり、特に私が印象に残った講演は、脊髄損傷者専門の訪問看護・ヘルパーステーション、リライフを立ち上げた、川村享平先生の講演だった。

講演では、脊髄損傷患者に対する専門的リハを入院期間の短縮などによって必要な期間提供できない現状や、自宅に退院しても地域では能力・機能が最大化されにくい現状、地域移行支援と在宅支援の不十分さがあり、そういった現状に対し、脊髄損傷者の一人暮らしを支援するため賃貸マンションへ引っ越していただき、そこへ訪問する法人を立ち上げた経緯があると訴えていた。

また、川村先生のお話だけでなく、実際にその法人の支援を受けている高位頸髄損傷の利用者さんのお話を聞く機会もあった。私自身も高位頸髄損傷者に対しリハビリとして関わらせて頂いた経験があり(今回はその症例の発表だったので尚更)、「チンコントロールの電動車椅子に乗りし、名古屋駅で電車の乗り降りもしている」との経験談からは希望をもらうことができた。また同時に、在宅支援の不十分さや、時間と共に変化する家族構成(もしも親が死んでしまったら、面倒を見てくれていた兄弟に家庭ができたなど)との葛藤など、当事者しか体験しえない貴重な経験と、そこから現在の一人暮らしでの生活ぶりについてのお話が強く印象に残った。

自身の発表については先に述べたように頸髄損傷者に関する症例報告を行い、学校の先輩や同じ石川県で働く作業療法士から温かい励ましの言葉を頂き、緊張しながらも報告を終えることができた。

今回の学会を通じて、職能団体としての力強さを感じることができただけでなく、対象者一人一人の退院後を見据えた介入と、その後の生活がより良いものになるための地域との連携の重要性を再確認することができた。

現職者選択研修会身体障害領域から学んでほしい事

病院医療部担当理事 川上 直子 (恵寿総合病院)

この研修会は、北陸3県交代での開催で、今年度は9月30日にいしかわ総合スポーツセンターで行い27名の参加だった。前半は急性期(恵寿総合病院永井亜希子氏)、回復期(浅ノ川総合病院小浦綾乃氏)、訪問(芦城クリニック村田明代氏)、老健(はまなすの丘買手登美子氏)からの講義、午後はグループワーク(以下GW)を行いより参加型を目指している。また講義から学んだことをそれぞれ記入することでGWと明日からの臨床の糧になればと考え、「気づきシート」というもの作っている。

GWは早期から自宅でのADL・IADLを意識してほしい! 重度要介護者でも老健から在宅復帰できることを学んでほしい! という思いで恵寿総合病院の永井氏、はまなすの丘の買手氏から実際の事例を提供していただき、課題やプラン、連携について考えた。

現職者選択研修のシラバスには「自身の勤務する施設での作業療法だけにとらわれることなく」「対象となる人々が受ける作業療法全体の流れをイメージできるように」と書かれている。この研修で学んだことが今後の作業療法展開に生かされることを願っている。

「現職者選択研修身体障害領域に参加して」

木島病院 高木 祐惟

9月30日にいしかわ総合スポーツセンターで行われた現職者選択研修身体障害領域に参加した。午前は急性期、回復期、老健、訪問の各分野でのOTの役割についての講義が行われた。自分の感想や考察を記入する「気づきシート」を利用することで講義内容を自分なりに整理しながら聴くことが出来た。シートを見直し、どの分野においても治療をスムーズに進めるうえでの早期介入や他職種連携、詳細な申し送りの重要さが感じられた。質問の時間は限られていたが、シートについて講師の先生方から総評をいただくことができ、非常に有意義な時間となった。

午後からは症例検討をグループワークで行った。グループ内の意見交換や他グループの発表では同じ1人の症例に対してもアプローチの方法は1つとは限らず、様々な考え方に触れる事ができた。その人にとってより良いアプローチで柔軟に対応していけるよう、この研修会から学んだことを今後の臨床でも活かしていきたい。



専門職としての未来に必要な事

公益社団法人 石川県作業療法士会 会長 東川 哲朗

現在、作業療法士が働く職場は医療保険分野と介護保険分野が多くを占めている。法律に「医師の指示の元」という文言があり、この勤務割合はある意味妥当かと思われる。そしてそれぞれの保険報酬から私たちの労働に対する対価が支払われ、私たちの報酬(賃金)となっている。故に、私たちは診療報酬と介護報酬の制度改正には敏感で有らねばならず、注視していなければならない。いうまでもないが来春は、この両報酬が同時改定される節目の年である。2025年問題と言われる、高齢化の一段と進む時まで、この同時改定は直前の年を除くと最後の改定である。直前の年に大きな改定は困難とされており、事実上来春の改定が2025年問題への対策と言われている。自分の労働や報酬に直結する大事な事である。人任せにせず、一人一人の会員が自分の将来をしっかりと見つめて頂ければと思う。

若い会員の皆さんを拝見していると、作業療法士が今後も安泰に身分保障された素晴らしい資格と思われている節が多く見受けられる。私自身もそうであったらどんなに良いだろうかと思わない日は無いが、残念ながらその様な夢の職種では無い。先に述べた診療報酬や介護報酬は社会保障費の一部であるが、これが日本では右肩上がりが増えていく。国の存亡を脅かすものになっている。従って、この費用の縮小に国は取り組んでいる。

私たちの多くの会員が働く現場はこの様な現実があることを是非承知頂きたいと思う。その為に打たれている施策や考え方はここでは触れないが、大変厳しい現実があることを重ねて、承知頂きたい。

その状況を打破するために私たちは、働く現場で、対象者(国民)に作業療法がどう有効であるかを示していく事や、今の技術・知識に満足することなくより効率的な方法についての研鑽をし続ける事が必要で、その為の努力・勉強を怠ってはいけない。一番大事な事かもしれない。

さて、一方で世界の作業療法に目を向けると、その対象は病気や怪我で心身機能に影響が生じた方だけでなく、活動や参加、その方の従事する作業の遂行の問題への対応と、有りとあらゆる分野・領域にその対象を広めている。世界作業療法士連盟の定義を一読される事をお薦めする。丁度日本では2025年に向け、「地域包括ケアシステム」の中で、私たち作業療法士のフィールドの発展が期待されている。先の通り、このフィールドに専従的に関わる人材は限られている。医療・介護保険分野の作業療法士が、少し頑張って、このフィールドで専門の能力を発揮しなければ、将来の活躍の場を失うことになる。

少し頑張るといふ所に援軍は得られないだろうか。作業療法士は女性の多い職種である。中には結婚・出産・育児・介護の事情で休職をやむなくされる方もいる。もちろんこれらの事は女性だけの大事ではなく、男性も等しく取り組むべき課題である。これらの方々に、市町からの依頼事業にご協力願えないだろうか。これらの依頼案件は平日の数時間の活動が多い事から、諸事情の合間に応じて頂ければと思う。ご協力頂ける方には県士会がバックアップし、作業療法士に求められている事、関連制度など、事案事例提示などの研修会を設け受講後にそのキャリアを発揮頂け無いかと考えている。

話を転じ、我々作業療法士の資格に関わる事を記したい。日本の作業療法の方向も、これまでの医療・介護分野を大事にしつつ、活動の分野を広げるべく進んで行く事が求められ、現在改定準備を進めている作業療法養成指定規則ではその様に改定される見込みである。

指定規則では他に、実習に関しても大きく変更される様である。これは数年前より実習の在り方が国会でも取り上げられる事になっている現状を踏まえ、これまでの実習の方法を大きく見直そうとの考えの元に進められている。実習で行える範囲の限定、実習指導者の資格などが変更されそうであるが、これには卒業教育も併せて変更しなければいけない大きな問題である。その卒業教育の延長に、これまでの様に一度国家試験に合格すれば良しとなっている現在の状況に変革が為されるもの(為されるべき)と思われる。それが、免許の2段階制なのか更新制なのかは定かで無いが、いずれにせよ、努力(勉強して技術・知識をアップデート)している人に報いる方向に動くのは当然のことのように思われる。

来年2月に取り組んでいる実習方法や、卒業教育の紹介をさせて頂く機会(能登支部研修会)を得た。これらに加え、その場で指定規則改定の情報も提供出来ればと考えている。多くの方の参加を期待する。

MTDLP推進委員会・在宅支援部合同企画研修会 魅せる作業療法！！ MTDLP活用実践研修会～ MTDLPを活かした在宅支援～を開催して

MTDLP担当理事 中森 清孝(加賀のぞみ園)

標題研修会は、MTDLPを活用し医療(病院)と介護(在宅)をつなぐ視点についての講演を受け、病院と在宅におけるMTDLP活用実践報告を踏まえ、参加者同志のディスカッション機会を設ける内容であった。これにより、作業療法士(以下、OT)が分野を問わず支援している生活行為向上や在宅生活の継続性や限界点を高める視点を強化することを目的とした。尚、研修会印象記については、恵寿金沢病院の坂本さんの記事を参照願いたい。

研修会参加者37名の勤務先は、「医療(病院)」から3分の2、「介護(在宅)」から3分の1の割合であった。グループ編成において、医療と介護の各分野の参加者が均等に交わるよう調整した結果、経験年数を問わず活発かつ濃厚なディスカッションが行われていた。「先輩OTの視点を把握できた」「日頃は気づかない視点(携わらない領域の)を養った」という意見交換機会となり、地域包括ケアシステムの構築に必要な「医療と介護のOT連携」につながった印象も受けた。

迫る平成30年度の医療・介護の同時改訂を含め、医療・介護・福祉が担う領域やサービスを理解した上で、OTがICFにおける背景因子を含めた生活機能を申し送ることは対象者様にとって重要である。今後、地域医療構想における在宅医療の需要の高まりが予測できる今だからこそ、「MTDLPの視点を活用した在宅支援の意識」を強化すべきではないかと考える。



研修会印象記

恵寿金沢病院 坂本 真理

「MTDLPを医療と介護の連携に有効に活用する視点」のテーマのもと、福井県の(株)坂井在宅総合サポートセンターの田嶋神智先生にご講演頂いた。介護予防マネジメントの考え方の基本として、利用者の状況を踏まえた目標を設定し、利用者本人が目標を理解した上で(合意形成)、必要なサービスを主体的に利用して、目標達成に取り組むことが大事であるそうだ。特に合意形成が不十分なものは、治療者の自己満足でしかないと感じた。利用者さんの状況を踏まえた目標を設定するには、現在だけでなく、過去や将来の一連の時間軸の中で意味のある作業を多面的にとらえることが大事とのことである。大事に思うことは対象者それぞれであることを念頭に置き、自身のやり方や教科書的な方法押し付けるのではなく、利用者の生活にあった目標設定、アプローチが出来るように努めていきたい。

後半は能美市介護老人保健施設はまなすの丘の明福真理子先生、芳珠記念病院の合歓垣紗耶香先生からMTDLPを活用した事例の紹介をして頂いた。合意目標に対して段階的な関わりをされており、一つの目標達成が次の目標へと繋がり、活動参加の場が広がっていく様子はさすがと感じた。また、看護師、家族などの周囲の人々を巻き込んだアプローチをされており、中でも合歓垣先生は、読書家だった患者のために病棟ラウンジに読書用スペースを作る等、入院生活中からその人らしい生活をマネジメントしていた。病院の環境に合わせてもらうのではなく、元の生活に近い環境を作っているのが勉強になった。

最後に、田嶋先生の講演で、「MTDLPを用いることでOTが変わり、OTが変わることで利用者が変わり、利用者が変わることで他職種が変わる」という言葉があった。正直なところ、「今は治療中だから活動参加の低下は仕方ない」と思ってしまったこともあったが、MTDLPを活用し、まずは自身の考え方を変えていこうと思う。

各支部支援活動状況

金沢東支部

金沢大学附属病院 堀江 翔

10月21日に開催されたいしかわ介護フェスタに東支部から10名がスタッフとして出席した。多数参加頂き感謝申し上げます。また11月15日に河北中央病院にて第2回MTDLP事例検討会を開催した。2事例で参加者は23名であった。精神科からの事例もあり、参加者はほとんど身障領域のOTであったが活発な議論がなされておりよい雰囲気であった。今後急性期を含めた様々な領域からの報告が望まれる。加えて11月17日には通常的事例検討会を金沢大学附属病院にて開催した。発表は12題の申し込みがあったが、十分な検討のため9題とさせていただいた。参加者は36名と最近の中ではもっとも多い人数となった。精神科からの発表もあったが、その他は同一施設や領域からの発表が多く、こちらも他施設、領域のOTに声掛けを行っていききたい。次回MTDLP事例検討会は平成30年1月10日(水)、研修会+事例検討会は2月3日(土)を予定している。どちらも多領域から多数の参加を期待している。

金沢西支部

公立つるぎ病院 苗山 卓弘

11月12日に公立つるぎ病院にて金沢西支部第2回MTDLP事例検討会、第2回事例検討会を午前、午後に分けて開催した。MTDLP事例検討会では16名参加のもとに2事例の発表があった。グループ内で初めての参加者も発言がしやすく活発な意見交換ができた。午後からの事例検討会では1事例の発表であり事例に対して時間をかけ様々な意見が聞ける場となった。次回は平成30年1月27日(土)に研修会と第3回事例検討会を同日に開催予定である。研修は前年度同様、子供連れで参加できるように企画する予定である。詳細はホームページ、公文書を参照し参加して頂きたい。

能登支部

公立能登総合病院 岡崎 律江

10月27日に佐原病院デイケアひだまりの樹にて第2回事例検討会を開催した。参加者は37名で、2例の脳卒中事例について検討した。その後は会場であるデイケアひだまりの樹の説明、施設見学をして頂いた。地域での連携、各施設の役割などが再認識できる内容となった。11月10日には七尾病院にて第2回MTDLP研修会を開催した。参加者は29名で、本人のニーズに加え、さらに生活の在り方を支援していくことの大切さを、2例の事例を通して検討した。今後も能登支部では年度末にむけて、まずは平成30年2月3日(土)4日(日)には七尾市中島町の能登小牧台にて毎年好評の1泊研修会、翌日は第3回事例検討会、そして3月2日(金)には青山彩光苑にて第3回MTDLP事例検討会を開催する予定である。研修会は当会の会長である東川哲朗氏を講師に迎え、教育をテーマにご講演頂く予定である。今後の私たちの将来にも繋がる重要な内容なので、皆さんの積極的な参加をお待ちしている。



加賀支部

片山津温泉・丘の上病院 西村 幸盛

10月22日午前中、芳珠記念病院において研修会を開催した。「いまさら聞けない！今から学ぶ！医療と介護のリハ専門職の連携」と題し、中森清孝理事による講義と加賀市と小松市、能美市の取り組みの紹介、さらに医療と介護の連携の実例を紹介した後に、連携が上手く行えた要因についてグループディスカッションを行った。27名が参加し、地域特性を踏まえながら医療と介護が連携するために必要な役割や視点について理解を深めた。昼食を挟んで午後からは事例検討会を開催した。4例の報告があり、自分の中の思いと実際の状況におけるギャップに対し、構成的作業を用いて本人の「できる」を引き出した事例などが報告された。



今後は平成30年2月18日(日)芳珠記念病院にて第2回MTDLP事例検討会と第3回事例検討会を、3月14日(水)やわたメディカルセンターにて第3回MTDLP事例検討会を開催する。多数の参加を期待する。

平成29年度 公益社団法人石川県作業療法士会 ◆◆◆第3回理事連絡会 議事録◆◆◆

1. 日時・場所：平成29年9月13日(水) 19:00～22:00 西泉事務所
2. 出席者：東川、寺田、岡田、麦井、安本、小池、大西、村田、渡邊、寺尾、高多、川上、米田、桂、白山、中森(理事16名)、堀江、西村、苗山、永井、(支部長4名) 山本詩織、山下(書記2名)
3. 議事 第1号議案 各部・委員会・各支部事業経過報告
 【学 術 部】第27回石川県作業療法学会について、学会長及び会場と日程の報告があった。【決定】
 【金沢西支部】認知症予防パンフレットの使用について、施設会員への配布及び各地区への配置を提案。
 【企 画 部】公益事業の赤字解消を目的として第31回風船バレー大会で販売予定のタオルを販売することについて報告があった。タオルの販売価格及びデザインについて提案があった。【決定】
 【執 行 部】平成30年度日本作業療法協会推進モデル事業への参加について、米田理事より報告があった。
 【事 務 局】東海北陸リーダー養成研修会への参加予定者について報告があった。

◆◆◆第3回理事会 議事録◆◆◆

1. 日時・場所：平成29年11月2日(木) 19:00～19:50 西泉事務所
2. 出席理事：東川、寺田、岡田、麦井、河野、川上、小池、安本、大西、高多、米田、渡邊、中森、白山、桂、村田(理事16名)
3. 出席監事：後出雅敏、進藤浩美
 欠席理事：寺尾、明福(2名)
 そ の 他：山田幸司(ノチテ会計)、西村、永井(支部長2名) 山本恭啓、山下(書記2名)
4. 議事 会員に関する報告(平成29年4月1日～11月1日)
 正会員数：783名(11月1日現在) 新会員：53名、退会者：8名 【承認】
 第1号報告：平成29年度上半期事業報告
 第2号報告：平成29年度下半期事業計画
 東川会長より、第1号報告があった。第2号報告では潜在作業療法士活用に関わる支援事業について東川会長より提案があった。【承認】
 第1号議案：平成29年度中間決算について
 安本財務部理事より平成29年度中間決算について報告があった。平成29年度決算見込みがマイナスであることについて、進藤監事より研修会参加者を増やす努力をするようにとの助言があった。【承認】
 第2号議案：その他
 第23回東海北陸作業療法学会に向けての積立金額について報告があった。【承認】

◆◆◆第4回理事連絡会 議事録◆◆◆

1. 日時・場所：平成29年11月2日(木) 20:00～21:00 西泉事務所
2. 出席者：東川、寺田、岡田、麦井、安本、小池、大西、村田、渡邊、河野、高多、川上、米田、桂、白山、中森(理事16名)、西村、永井、(支部長2名) 山本恭啓、山下(書記2名)
3. 議事 第1号議案 各部・委員会・各支部事業経過報告
 【学 術 部】県学会学会長及び査読者の選考基準、学会発表に関する相談の流れについて提案があった。
 【教 育 部】各支部における事例検討会のポイント付与について確認があった。
 【認知症対応委員会】金沢市包括での認知症予防教室に派遣できるスタッフが少なく要請が必要と報告があった。
 【発達障害支援部】自閉症児支援の増加に伴い精神領域および市町との連携強化の必要性について報告があった。
 【執 行 部】平成29年度県リハビリ専門職活用モデル事業は平成30年2月に金沢市で開催の予定、岡田理事、桂理事が担当。

第27回石川県作業療法学会

テーマ：地域とともに作業療法

地域包括ケアシステムの推進が加速している現状と、専門分野に関わらず私たちが対象としているのは地域に暮らす人なのだという思いからこの言葉をテーマに選びました。

地域に支えられ、地域と共に自分自身が作業療法を实践させていただいているという実感があります。対人援助の専門職として、皆さん一緒に学びを深めていきましょう。

学会長：明福真理子（能美市介護老人保健施設はまなすの丘）

日時：平成30年6月24日（日）

場所：金沢大学十全講堂

特別講演

「支える側が支えられるとき」
～認知症の母が教えてくれたこと～

詩人：藤川幸之助氏



北海道新聞社提供

言葉のない母が
私に問いを投げかける
命とは何か
生きるとは何か
死とは
老いた母が
その存在から
私に問いかけ続ける
「徘徊と笑うなかれ」扉より

演題募集：開始 2月上旬～締め切り 3月25日

学会HP <http://www.ishikawa-ot.com/category/gakkai-info/>

皆さんの演題登録をお待ちしています。

K I N J O

UNIVERSITY

きみに、見せたい未来がある。

金城大学
社会福祉学部
社会福祉学科
子ども福祉学科
平成30(2018)年4月開設予定
(設置計画中、教職課程認定申請中)

医療健康学部
理学療法学科
作業療法学科

看護学部
看護学科

大学院
総合リハビリテーション学研究所
総合リハビリテーション学専攻(修士課程)

金城大学 医療健康学部 理学療法学科・作業療法学科
◆平成28年度 理学療法士国家試験、作業療法士国家試験合格率100%
◆理学療法学科 第一期卒業から7年連続100%の高い就職実績!
◆作業療法学科 第一期生(平成29年3月卒業)の就職率は100%を達成!

金城大学 入試 広報部 ☎0120-276-150 E-mail: nyushi@kinjo.ac.jp
〒910-8502 石川県金沢市南丸の内1-1-1
<http://www.kinjo.ac.jp/ku/>

在宅ならではの深い関わりが持てる!!
「退院後の人生を支えたい!」
そんな想いで介護の業界に入りました。お客様とじっくり関われる今の環境にやりがいを感じています。

デイサービス 太閤のリゾート白山
管理者(作業療法士) 中富 博久

↓こちらの事業所で募集中です↓

金沢市、野々市市、白山市の
◆デイサービス ◆訪問リハビリ(有料老人ホーム内勤務)

正社員 月給…270,000円～、時間…8:30～17:30または9:00～18:00
休日…週休2日(シフト制)、賞与年2回、社会保険完備、退職金あり

パート 時給…2,000円～、時間…1日2時間以上
勤務…1ヶ月の勤務回数店相談、労災あり ※時間に応じて雇用保険・社会保険加入

共通 昇給年1回、交通費あり、各種資格手当、日/祝出勤手当、OJT制度

サウンウェルズ 株式会社サウンウェルズ本社 人事部：東(ひがし)
☎076-272-8982

賛助会員名簿 (順不同)

A会員

社会医療法人財団董仙会
学校法人 金城学園

B会員

学校法人センチュリー・カレッジ
社会福祉法人徳充会青山彩光苑
特定医療法人社団勝木会
学校法人阿弥陀寺教育学園
医療法人社団和宏会

C会員

粟津神経サナトリウム
石川県済生会金沢病院
石川県リハビリテーションセンター
医療法人社団浅ノ川浅ノ川総合病院
医療法人社団浅ノ川金沢脳神経外科病院
医療法人社団浅ノ川桜ヶ丘病院
医療法人社団浅ノ川千木病院
医療法人社団映寿会
医療法人社団さくら会森田病院
医療法人社団慈豊会
医療法人社団丹生会
医療法人社団生生会えんやま健康クリニック
医療法人社団千木福久会
医療法人社団扇寿会
医療法人社団長久会
医療法人社団同朋会
医療法人社団中田内科病院
医療法人社団洋和会

医療法人社団輪生会
医療法人積仁会
金沢医科大学病院
独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院
金沢赤十字病院
公立穴水総合病院
公立宇出津総合病院
社会福祉法人篤豊会
公益社団法人石川勤労者医療協会城北クリニック
公益社団法人石川勤労者医療協会城北病院
珠洲市総合病院
芳珠記念病院
医療法人社団博洋会
医療法人社団持木会柳田温泉病院
医療法人社団博友会
医療法人社団光仁会
宇野酸素株式会社
金沢義肢製作所
株式会社トータルシステム
株式会社トミキライフケア
株式会社半田
株式会社ヤマシタコーポレーション金沢営業所
セントラルメディカル株式会社
三星自動車販売株式会社
株式会社メディベック
株式会社サンウェルズ

D会員

医療法人社団あいずみクリニック
有限会社さわか金沢

平成29年度会員名簿訂正

今年度発行の会員名簿に誤りがありました。関係各機関の皆様にはご迷惑をおかけして申し訳ありません。

【正誤表】

P 6 幹事		(誤) 後出 博敏 → (正) 後出 雅敏
P16 金沢医科大学病院	Fax番号	(誤) 076-234-4375 → (正) 076-286-2381
P19 河北中央病院	電話番号	(誤) 072-289-2117 → (正) 076-289-2117
河北中央病院	Fax番号	(誤) 空白 → (正) 076-289-5462

新入会員名簿

勤務先	氏名	勤務先	氏名
KKR北陸病院	北川亜寿香	加賀こころの病院	深田 清美
国立病院機構金沢医療センター	中根 幹久	太陽の丘	名田 早織
千木病院	棚辺 和宏	片山津温泉丘の上病院	田村 透

会員動向

石川県作業療法士会会員 783名
認定作業療法士 28名
専門作業療法士 福祉用具2名 高次機能障害1名 認知症1名 手外科1名



編集後記

インフルエンザの流行を前にワクチンの不足がニュースとなっている。スタッフは、予防注射が終わっているためひとまず安心しているが、在宅の高齢者やその家族の流行を心配である。地域で生活する場合、常日頃援助していただける家族や周囲の方の健康状態が、その高齢者の生活に直結する問題となるから…。

公益社団法人石川県作業療法士会ニュース 年4回発行

編集担当：米田貢、明福真理子、白山武志、酒野直樹、横川菜美、杉浦有子、藤田隆司、川口朋子、寺井利夫、太田哲生、寺嶋翔子、白田明莉、中川雅崇、越仲共子、山梨珠美

発行所：公益社団法人 石川県作業療法士会

〒921-8043 石川県金沢市西泉3丁28-1 東和第3ビル201 Tel 076-259-0678

発行人：東川哲朗 印刷：ヨシダ印刷株式会社